



特別賞



大阪堂島浜タワーランドスケープ 堂島川水辺空間整備

株式会社 三菱地所設計

ランドスケープ担当：西垣和真・塚本敦彦
三浦康孝（元社員）

プロジェクト統括：名倉良起

建築担当：尾杉友浩・石川一平

電気設備担当：近藤 卓・上田早紀

「浪華八百八橋」、川と橋のネットワークで発展した水都・大阪。本計画では、民間開発による大阪堂島浜タワーのランドスケープだけでなく、堂島公園、堂島浜船着場などの公用地を一体的に整備することで、堂島川と御堂筋に面した川と陸の結節点に1「賑わいの起点」を形成し、新たな人の流れや活動を生み出すことを目指した。「水都の賑わいをむすぶー結ぶー掬ぶー」というテーマのもと、地域の新たなシンボルとなるランドスケープの創出を図った。

「水都の賑わいをむすぶー結ぶー掬ぶー」新たな賑わいの起点

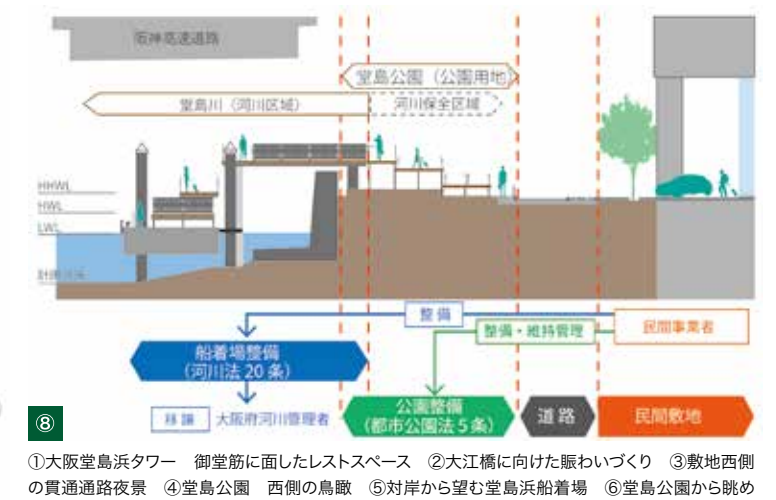
「大阪堂島浜タワー」が建つ大江橋の袂、その北側の地域では、建物が密集し、オープンスペースが不足しており、道路の歩道は十分な幅員や緑が乏しく、ウォーカビリティが低い課題があった。これを解消し、エリアの回遊性・利便性を向上するため、水の動きや表情を取り入れた、新たな賑わいの起点となるランドスケープを目指した。御堂筋に面する敷地東側に、ベンチやドライミストを併設したレストスペースと植栽を設け、西側には四季の移ろいを感じる貫通通路を設けた。また、敷地南側のケヤキ、北側のケヤキとタブノキが混在する列植は、周辺エリアと連携した街並み・緑のリレーに配慮し、歩行空間と一体に新たな緑のネットワークを形成している。

作品概要

作品名——大阪堂島浜タワーランドスケープ 堂島川水辺空間整備
所在地——大阪府北区堂島浜1丁目
建築主——オーエム4特定目的会社
設計監理——株式会社三菱地所設計
設計協力——株式会社ブライア・コンサルタンツ(船着場)
施工——(大阪堂島浜タワー)株式会社竹中工務店
(堂島公園)西武造園株式会社
(堂島浜船着場)株式会社竹中土木
設計期間——2018年4月～2020年6月
施工期間——2021年10月～2024年4月
規模——(大阪堂島浜タワー)敷地面積：約3,571㎡
(堂島公園)約1,498㎡
(堂島浜船着場)約307㎡
主要施設——(大阪堂島浜タワー)植栽、園路、広場、ベンチ 他
(堂島公園)植栽、人工木デッキ、テーブル 他
(堂島浜船着場)PCセグメント式浮き 他

作品評

本作品は、大阪市の都市再生緊急整備地域内に建設された超高層の複合ビルの外構部分と、それに面する堂島川の水辺空間を対象とするランドスケープデザインである。
管理者の異なる民間・公園・河川の敷地をまたいで、水辺のにぎわいの創出と快適な歩行者空間の確保を目指すプランであり、それに伴う複雑な要件や調整すべき様々な課題に対して、応募者はそれらを乗り越えて基本計画から工事監理までの役割を一貫して担い、工事の完成につなげている。その努力を高く評価したい。
緑化の対象空間であるビルの外構部と堂島公園は、空間的にも制約が多く、デザイン面での苦労がうかがえるが、こうした中でも曲線を用いた歩行空間と選択された樹木で構成される静寂感のある散策の小径、高木の列植による緑の軸線の形成、透け感のある植栽と一体化したレストスペース、賑わい遊びの場となる公園空間を生み出しており、応募者の発想の柔軟性と対応力の高さが感じられた。
以上の点や応募資料の内容が評価され、特別賞に選出された。



堂島公園 「まちと川の賑わいを掬ぶ水辺空間」

古くは堂島米市場が立地し賑わいを見せていた堂島川の水辺空間。再整備前の公園は、開放型喫煙所が設置され喫煙目的の利用者が多く、高さ約1.1mの護岸によって、川面への視認性が低く親水性が希薄であった。再整備にあたっては、多様な活動を生み出す多段状の施設配置により川への眺望を向上すると共に、対岸と見る・見られる関係性を持つ空間を形成することで、賑わいが周囲に波及する空間を目指した。公園内は、大阪府の補助金を活用した観光トイレ「kawamo」（当社設計）や大阪市整備による閉鎖型喫煙所も一体で整備し、都市のホスピタリティを高め、まちと川の賑わいを掬ぶ、親水性の高い水辺空間として再生させた。

堂島浜船着場 「都市機能を拡張する舟運拠点」

近接する大江橋の桁下が狭く、潮位変動によっては船舶の航行が困難となる。こうした大江橋上流と下流の分断は、舟運を活用した防災・観光振興において課題となっていた。市役所や緊急輸送道路である御堂筋に近接する大江橋の下流側に、潮位変動に左右されないポンツーンを整備することは、陸路が寸断された場合においても舟運による物資輸送が可能になるなど、都市防災機能の向上に寄与する。
また、大阪堂島浜タワーに整備された宿泊施設や観光展望施設、陸路や公共交通との連携に適した立地を活かし、臨海部と大阪市中心部の舟運ネットワーク強化・拡大を通じ、新たな観光振興へ寄与することも期待される。